

大久保市長

今日は整備を進めていました、小長井の山茶花高原ピクニックパークの大型展望遊具について、お知らせします。

昨年から整備をしてきました大型展望遊具ですが、いよいよ今月末で完成するということで、利用開始となるグランドオープンを4月18日土曜日10時からと決定しました。

グランドオープンに先立ち、その1週間前の4月11日土曜日その完成式典を12時から山茶花高原リニューアル事業に関係された皆様をお招きして開催します。

そして、11日の式典が終わった後と、翌日の12日の土日に、小長井地域の保育園児、小長井小学校の児童を招待して、プレオープンを行います。

大型展望遊具については、これまで山茶花高原ピクニックパークのシンボルだった大きな風車に代わる新たなランドマークとして、高さが14m、直径が16mで4階建ての多様な遊具を備えています。

子どもたちの好奇心を刺激して、ワクワクするような施設を目指して整備してきました。

また、展望フロアから有明海を見下ろすロケーションは絶景で、私も先日下見をしてきましたが、非常に高いところから有明海と雲仙岳を眺めるというような景色です。

高さ12mで長さが34mのローラースライダーは、スピードとスリルを体感することができます、子どもたちに大いに喜んでいただけていると思っています。

このほか、小さなお子さん向けにも安心して遊ぶことができる、複合遊具や広場、保護者の方もゆっくりお子さんたちが遊ぶのを見守れるような屋根付きベンチなども整備しています。

今回整備を行いました大型展望遊具を新たな資源として、諫早市内外の多くの皆様に足を運んでいただくことで、小長井地域のにぎわいの場となるように努めていきたいと思っています。

各遊具の詳細については担当部長から説明をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

建設部長

今回の整備内容について、モニターの方でご説明します。

まず、山茶花高原ピクニックパークに大型展望遊具を整備するに至りました経過をご説明します。

令和3年度に小長井地域が国から過疎地域の指定を受けたことを契機として、諫早市としては過疎地域の持続的発展計画を策定し、山茶花高原ピクニックパークを小長井地域のにぎわい拠点として位置づけました。

令和4年度からは、小長井地域の方々を中心に、山茶花高原リニューアル協議会を組織して、その協議会で今後の同公園の在り方についての検討や、山茶花高原ピクニックパークのリニューアル事業に対する、基本的な考え方の整理を行ってきました。

このリニューアル事業を実施することで、新たな観光資源を創出し、当公園をはじめ、小長井地域の交流人口のさらなる拡大を図り、ひいては諫早市全体のにぎわいの創出につなげていくことを目的としています。

今回の大型展望遊具は、本市ではこれまでにない規模の遊具整備でしたので、柔軟かつ高度な発想力と事業の円滑かつ効率的な実施能力等を有する事業者を実施いただくことで、最善の効果を生み出すことが期待できると判断して、公募型プロポーザル方式を採用して、事業者の選定を行いました。

この事業については、令和7年3月3日から事業着手し、今月末に完成する見込みです。

総事業費は2億6,510万円です。

今回整備した大型展望遊具、対象年齢を6歳から12歳としています。

先ほど市長の説明にもありましたように、高さは14mで直径が16mの円柱型の鋼製構造で、4階建ての遊具です。

最上部は、山茶花高原のシンボルだった風力発電施設を思い起こさせるよう、その一部、羽根の中心部を再利用した風車のモニュメントを設置し、4階部分には眼下に有明海を一望できる展望広場と設定しています。

4階レベルから滑り降りるローラスライダーを配置しています。

3階部分には、中心部にネットランポリンを設置し、3階のレベルからもチューブスライダーを設置しています。

2階部分には、布製のふわふわランポリンを設置し、さらには4種類の滑り台、フリーフォールスライダー、ウェーブスライダーが3基、ストレートスライダー、スパイラルチューブスライダーを設置しています。

1階部分は、雨の日の緊急的な雨宿りにも利用できる空間で、その中には見守りのベンチなどを配置するなど、大型展望遊具の各フロアに多種多様な種類の遊具を配置しています。

この大型展望遊具の中心1階から4階を貫く部分に、らせん階段を配置し、1階から4階まで直接上がれるような構造になってます。

各フロアへのアクセスもできる動線を確保するとともに、この大型展望遊具の外側に2階までのスロープを設置し、車椅子のお子様でも2階に配置している

ふわふわトランポリンをご利用できるような配慮を行っています。

次に、幼児用の複合遊具は、大型展望遊具のすぐ近くに整備していて、気球をイメージした高さ8m、直径10mの遊具です。

ロープを使ったロープジャングルや、バランスロープというロープ系の遊具や、ウェーブスライダーなどの滑り台のほか、ウェーブライダーという、うんていを配置したり、ロープを使って壁を登ることができるロープクライムなど、クライム施設は3種類設置してます。

パネルを使って遊べるような遊具なども配置しています。

こちらは対象年齢が3歳から6歳になっています。

この他に、対象年齢を1歳から3歳の乳幼児用の専用広場で整備をしています。

転んでもけがをしないゴムチップ舗装、いちごのトンネル、フルーツレンジャーパネル、壁際にパネルを設置しています。

メロンパネルというようなパネル遊具や、みかんスピナーや見守り用のベンチなどを配置しています。

これらの遊具の周辺は、先ほどの大型展望遊具、小型複合遊具、乳幼児用の専用広場、周辺にはターザンロープ、パラグライダーブランコ、スイング遊具などのほか、雲シェルター、パラグライダーベンチなど、遊ばれてるお子様の見守りができるような屋根付きベンチなども整備しています。

以上が各遊具の詳細ですが、3月11日時点の整備状況写真を撮影してきていますので、ご覧ください。

こちらが全景です。

大型展望遊具がこちらにできています。

大型展望遊具の展望フロアから見える景色を撮影をしてきましたが、あいにくかすんでいました。

晴れた日には有明海や雲仙岳がすっきり見えるだろうと思います。

次に左がローラースライダーの入り口、4階部分から滑り降りるこの部分です。

こういうふうなガードがこの先にもついていくような形になります。

下の方まで転落しないような整備をしていきます。

3階部分と2階部分の各トランポリン、左が3階部分のネットトランポリンです。

この3階部分の下に、右の写真のような形で、布製のふわふわトランポリンを整備しています。

こちらが低学年向けで、小型の複合遊具です。

これはもうほぼほぼ組み上がっている状況です。
こちらが乳幼児用の遊具広場で、こういう形で小さい遊具が随所に配置されて、あとは舗装を待っている状態です。
以上で説明を終わります。

大久保市長

令和3年に小長井地域が過疎地域に指定され、どうやって過疎から脱却していこうかということを考えて中で、一つは学校改革で、小長井町の小学校を統合しました。

今年度の4月です。

いよいよ令和10年度からは小中学校一貫の義務教育学校をしていくということです。

もう一つの大きな政策が、山茶花高原ピクニックパークは過疎地域に指定される前はちょうどコロナ禍でしたが、コロナ禍でも来場者数が減らなかったという、旧町から引き継いできたこの財産をどう活かしていくかということで、いろいろ議論をしてきました。

古くもなっていますので、いろんな遊具をリニューアルしていこうと、シンボリックなのがこの大型展望遊具で、以前は風車があって、そういうのもなんとか思い出を残しながら、これからの子どもたちが来て楽しんでワクワクするような、非常に好奇心を刺激するような、そういう遊具を作ろうと言って、今月で完成するということです。

ぜひ、グランドオープンあるいはその1週間前のプレオープンも楽しんでいただいて、持続可能に皆さんたちが訪れて楽しんでいただけるようなもらえるような、そういう施設にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。